

五月の俳句

(2 0 2 2 / 0 5)



目次

| | | |
|---------|--------|--------|
| たべもの俳句 | モロク俳句 | 歳時記俳句 |
| 10 ↳ | 6 ↳ | 1 ↳ |

5月の他の別名

菖蒲月（あやめづき）・薫風（くんふう）・早月（さつき）・橘月（たちばなづき）・雨月（うげつ）・稲苗月（いななえづき）・早苗月（さなえづき）

（宇佐美保幸）メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに
巢鴨とげぬき徒然俳句
<https://blog-haiku.777usami.com>

そぞろなる心静める五月かな
口紅は女性差別だ五月来ぬ

ひとつ咲き沈思黙考牡丹咲き
牡丹咲く向きを変えろとそれは無理

秘めやかにそして凶太く姫空木
振花は右に左に偏らず
校則にこだわる大人子供の日

温暖化嘘か誠か夏兆す
猫カフェの猫になりたし夏兆す
夏めきて自由になつて喋り合う
夏めくや二階席あるバスに乗り

薔薇咲いて優しくせよと棘かくし
白バラの白の主張や自己主張
密に咲く薔薇に風あり幸あれと



つるバラが花を散らして苦情あり

えごの花密に咲けども行儀よく
結局はいつもの花がえごの花
えごの花空想の羽広げたり

九輪草咲きのぼる先何求め
紫蘭咲く差別なき世の白花も
五月雨の庭の鉢植え雨の音

雨模様無頓着かな皐月咲く
花さつき赤の濃淡ひと花に

若葉風地球儀回し旅行かな
若葉風孫の絵本をひとり読む
脳みそをたたくドラムや若葉風

四の日の巢鴨繁盛薄暑かな



きいちごを一粒試す薄暑かな

初夏ですさだまさし聴くある日かな
たけのこは逃げはしないよ藪の中

ケセラセラ割り切り気楽風薫る
名も知らぬ花も多くて風薫る
風誘う薫風求め越辺川

新緑に染まりし我も露天風呂
新緑や夕日まぶしき露天風呂

かわいくて不都合に咲くかたばみが
カタバミや拡大すれば美人かな

五百羅漢不細工顔に青葉風
青葉かな銚子電鉄また青葉
青葉若葉いずれに落ち葉人生や



ストレスを捨てに出かける万緑に
苛立ちの精神鎮め万緑や

夏薊本心秘密孤独花

雑草と言われて差別姫女苑
日本人見習うべきか姫女苑

瀬戸の島香りが満つる花蜜柑
あこのころの昭和しあわせ花みかん

近くにもそして遠くに麦の秋
シャッターに奇抜なアート麦の秋
列島は揺れて敏感麦の秋

目覚ましの秒針の音緑の夜
柿若葉雨に打たれて鍛えられ



花びらを何にたとえて花菖蒲
花びらをたれて恥じ入る花菖蒲
朝夕に水音変える花菖蒲
しなやかにやさしくゆれてはなしやうぶ

五月閨鏡を磨くごとくなり
五月閨白く濁りし我が脳も
五月閨誰にも覚え孤独あり

公園の鳩も戸惑う青嵐
貧血の原因不明五月尽



モーロク俳句

モーロクしされど生き抜く五月来る
聖五月生きとし生けるモーロクし
モーロクしそぞなりけり五月かな

ひたすらに生きてモーロク牡丹咲く
牡丹散るモーロクすれば自分事

モーロクし強がりひとつクレマチス
モーロクし疑心暗鬼に手毬花

モーロクし考えもなく柏餅
モーロクしえごの花見てふさぎ込む

モーロクし生きると決めて夏隣
モーロクし決心揺らぐ白菖蒲



モーロクし重ねし見栄と薔薇の花
モーロクし妬んでしまふ姫女苑

モーロクし癩癩ゆれてひなげしや
モーロクし目覚めて命ほととぎす

卯の花やとぎに目出度きモーロクし
卯の花腐し涙はかれてモーロクす

モーロクし祈りいろいろ花蜜柑
薫風もモーロクすればただの風
風薫るモーロクしても手を洗い

若葉風モーロクすれど紹興酒
青葉風仰臥瞑目モーロクす
モーロクし青葉若葉の風の音



モーロクし區別も出来ず古茶新茶
モーロクし寂しさ多く新茶飲む

モーロクし狂いを常に藤の花
藤重くモーロクすれば肩こらす

モーロクし憐憫という卯波立つ
モーロクし行き先もなく麦の秋

新緑やこの道筋もモーロクし
新緑よモーロクすれば涙なく

モーロクし輝き失い花あざみ
モーロクし夢はあきらめ松落葉

モーロクしいつも寝不足朴咲きぬ
モーロクし思い生き交う五月闇
柿若葉背中のつばさモーロクし



挑戦をモーロクしても燕の子
モーロクし目立たぬ生きて柿の花

モーロクし仲間見つけてかたつむり
モーロクし五感危うくかたつむり
モーロクし五欲を捨ててかたつむり

憲法もすでにモーロク麦熟るる



たべもの俳句

初鯉ナイフとフォークカルパッチヨ
五月きて五目ご飯もにぎやかに

オシヤレかな鯉ユツケを平皿に
パン焼機夜中働き初夏となる

こどもの日韓国風のり巻きで
たけのこでかわいく作る手毬寿司
まるごとに麦わらいさき塩焼きに

シュウマイにホクホクそら豆トッピング
そら豆にベーコン加えフリッタータ

新玉葱剥けば輝く白き肌
新玉のぬたをサラダにアレンジし



新じやがをまるまる煮付け皮のプチッ
新じやがをそのまま蒸して岩塩を

街散歩街中華にて五月晴れ
フキサラダ光に透ける緑かな

お茶漬けをさらりさらりと藤の花
夏みかん酸っぱさこそが昭和かな

フワトロにフレンチトースト青葉風
みずみずし切り口選びキャベツ買う
ラーメンにキャベツともやし盛り上げて

マスタード効かせ絹さや豆サラダ
コロツケは肉屋に限る花大根

瀬戸内のシヤコをゆであげ吟醸酒
新茶にて甘納豆をにさんぶつ



少しだけ苦みをきかせパセリかな
インゲンのごま和え作る隠元忌

若葉風チーズケーキに紅茶かな
夏立ちぬチーズケーキを老夫婦

口の中トビウオにぎり滑走す
万緑や山盛り焼きそば粉海苔を

実山椒甘辛しょうゆ佃煮に
パリパリに小アジから揚げカレー味

朝粥に卵を落とし走り梅雨
走り梅雨ひとりの朝餉玉子焼

車海老やはり塩焼初夏となり
マスタードスナップえんどうマヨ和えに





